

水産防疫対策委託事業（水産動物疾病のリスク評価，国際基準・情勢に対応したアクティブサーベイランス等の実施）（令和4年度／国庫委託）－栃木県におけるアユ冷水病発生株の調査－
野中信吾・武田維倫・酒井忠幸・森竜也・小堀功男

要 約

本課題では，2020年に高野らにより開発されたマルチプレックス PCR 法による冷水病原因菌の遺伝子型分類法を用いて，2022年に栃木県内河川から単離した冷水病原因菌 46 株と 2004-2007 年に単離した 6 株の遺伝子型を解析し，昨年度までに解析した 2016-2021 年の 63 株の遺伝子型データを加えて発症した遺伝子型の傾向を解析した。

その結果，2022年に単離した 46 株は 7 種の遺伝子型に分類され，2016-2021 年までと同様に CD45 型と CDC5 型が 8 割を占めた。また，2021年に引き続き CC08 型が確認されたが，残りの 4 種類は過去に確認されたことの無い遺伝子型であった。また，2004-2006 年については，CD45 型と CDC5 型は確認されなかった。

CC08 型は 2021-2022 年に X 川で経年的に確認され，2021-2022 年の分離株の中で最も多い遺伝子型となっていたため，近年 X 川に偏って存在している可能性が示された。

また，2021-2022 年に栃木県内の同一地点から複数菌株が採取された 19 事例（75 株）では，解禁後経時的に同所から複数の遺伝子型が検出されるようになる傾向が確認された。

なお，本課題の詳細については「令和4年度 水産防疫対策委託事業（水産動物疾病のリスク評価，国際基準・情勢に対応したアクティブサーベイランス等の実施）報告書」により農林水産省へ報告した。

（水産研究部）